

豚の肥育全期間(30~110kg)における玄米混合給与の影響

【 1 成果の概要】

- (1) 市販配合飼料に玄米を 20%混合し、肥育全期間(肥育開始時 30kg から出荷体重 110kg に達する期間)に給与しても、DG(1 日平均増体重)、飼料要求率等の発育成績および背脂肪厚等の枝肉成績ともに市販配合飼料給与の場合と同等な成績が得られます(表 1)。
- (2) 玄米 20%混合給与すると、皮下脂肪中のオレイン酸割合が高くなり、リノール酸割合が低下し、脂質の改善が期待できます(表 2)。
- (3) 玄米混合給与により LW・D は皮下脂肪中のオレイン酸割合が顕著に高まるが、LW・B の変化は少なく、LW・D20%混合給与と同等の高いオレイン酸割合になります(図 1)。
- (4) 食味評価では LW・D の 20%混合給与した豚肉は、玄米混合給与していない豚肉と比較して、脂の滑らかさが良く、総合的においしいと評価されます(図 2)。

表 1 発育成績及び枝肉背脂肪厚

試験区	肥育日数(日)	出荷日齢(日)	DG(g/日)	飼料摂取(kg)	飼料要求率	背脂肪(セ)(cm)
玄米 0%	88	167	943	239 (0)	2.99	1.9
玄米 10%	87	163	977	258 (25.8)	3.09	2.4
玄米 20%	82	156	1007	242 (48.4)	3.01	2.4

飼料摂取量の () は飼料中の玄米摂取量

表 2 皮下脂肪内層脂肪酸組成

(%)

試験区	パルミチン酸 (C16-0)	オレイン酸 (C18-1)	リノール酸 (C18-2)	飽和脂肪酸 (SFA)	不飽和脂肪酸 (USFA)	不飽和度 (USFA/SFA)
玄米 0%	25.5	43.0	10.1	42.2	55.0	1.3
玄米 10%	25.8	43.3	8.6	43.4	53.7	1.2
玄米 20%	25.4	44.7	8.7	42.4	55.2	1.3

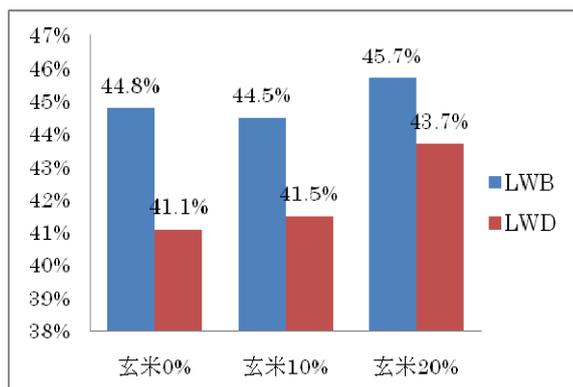


図 1 オレイン酸割合(品種×玄米混合割合)

LW・B は止め雄がパークシャー種の三元交雑豚で、LW・D は止め雄がデュロック種の三元交雑豚。

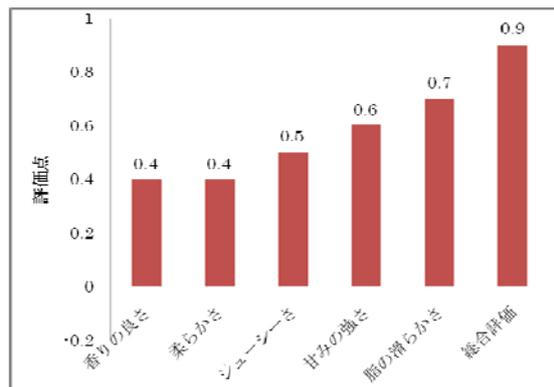


図 2 食味評価

LW・D0%の豚肉を基準に LW・D20%の豚肉の食味を-2 から +2 の範囲でスコア化。ロース肉をホットプレートで加熱したものを 2 点比較法により 24 人で評価。

【 2 留意事項】

- (1) 使用した玄米は、うるち、もち等が混合されたものを飼料粉碎机で粉碎したものを使用しました。玄米はカルシウム含量が低いため、配合飼料と混合する際には炭酸カルシウム等で補って下さい。(玄米 20%混合の場合は炭酸カルシウムを原物比 0.1%添加)